

# 七宝焼



**⚠** 七宝焼を行うには指導員の要請が必要です。

## 1. ねらい

七宝焼を「創る」という活動を通し創作活動の喜びを味わい、美しいものを創る感性を育み、生活に潤いを与えてくれる手づくり作品のよさを気づかせます。

## 2. 準備 (よくお確かめください)

☆は当所売店で購入してください。(料金については HP 又は利用ガイドをご確認ください)

自然の家で貸し出しできる物	利用者に準備する物
電気炉 ※指導員が扱います	七宝素材 (☆)
釉薬・七宝絵の具セット	ウエス (布)
火ばさみ	ティッシュペーパー
竹べら (ホセ)	
ふで	注) 七宝素材の価格は、「釉薬・七宝絵の具セット」等の消耗品使用料込みです。
ピンセット	<u>ご利用2週間前まで</u> にご注文願います。
スチールウール	
金網	
水入れ	
ヤスリ	



釉薬・七宝絵の具セット



電気炉

## 3. 活動内容

- (1) 作成できる物  
 ○ブローチ ○ペンダント ○キーホルダー

### (2) 活動の流れ

内 容	時間
・事務室に連絡して用具の貸し出しを受けます。	10分
・作りかたを説明します (指導員が行います)	20分
・制作	70~90分
・後始末とまとめ	10分
・事務室に連絡して用具返納の確認を受けます。	10分

### (3) 計画・準備

- ①製作時間は2時間30分~3時間が望ましいので、半日程度の研修とします。
- ②1回の実習人員は20人程度。これを超える場合は他の活動と組み合わせ、ローテーション方式とするか、選択制にします。
- ③あらかじめ班編成 (5~8人) を決めておきます。
- ④素材は**食事・物品注文書にて一括して購入しておきます。**
- ⑤技法はいろいろあるので、事前に調べ、あらかじめ個々の製作意欲を高めておきます。

## (4) 製作工程

工 程	内 容	留 意 点
配色とデザインを決めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>色見本を見ながら、各自のアイデアで色づけを行きましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創意・工夫を大切にしてください</li> </ul>
両面処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>銅板をスチールウール（ボンスター）でみがきます</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>水洗いはピンセットでつまんで洗います</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>ティッシュペーパーで拭きます</li> <li>台紙の上に置きます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理が不十分だと発色や釉薬の盛付けが悪くなるので、ていねいにみがきましょう</li> <li>水洗いし、ふき取り後は素手で触らないようにしてください</li> </ul>
釉薬の盛付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>表面に釉薬を盛付けます（図1）</li> </ul>  <p>表盛り 銅板の厚みぐら いに平均に盛る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>釉薬は、透明色と不透明色の2種類があり、表面に1mm以内の厚さに全体にむらなく竹べらでぬります</li> </ul>
乾燥	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気炉の上で乾燥させます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十分に乾燥させてください</li> </ul>
焼成  (二度焼成)	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かに電気炉に入れます ※指導員が行います</li> <li>釉薬の盛付け後に焼成を繰り返します</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>焼成の時間は約1分です</li> <li>各自でしっかり計りましょう</li> <li>温度と時間を確認してください</li> </ul>
仕上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕上げに銅板と本体を接着剤で張り合わせます</li> <li>うまく貼り付けられないときは、やすりで削ります</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品が割れてしまわないように、ていねいに扱きましょう</li> </ul>

## 4. 留 意 点

- ① 釉薬は、色の濁りの原因になる微粉が混入しているので、使用前に必ず水洗いし取り除く。
- ② 色を変えるときは、竹べらや筆を洗ってから次の色に移りましょう。
- ③ 電気炉の温度は800度以上になります。やけどには特に注意が必要です。  
※原則として、電気炉への出し入れは指導員が行います。
- ④ 作品製作後、使用した用具類の返納を完全に行いましょう。
- ⑤ 後片づけとゴミの処理、清掃を行いましょう。